

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)夢を語り、主体的・協働的に課題を解決する児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)地域から信頼され、自校に誇りがもてる学校
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎主体的・対話的な深い学びとなる授業づくりを通し、自ら考え学びあい、課題を解決する力を育成する	○算数科を中心とした深い学びに向かう授業改善 ・数学的な見方・考え方を育む授業の在り方 ・効果的なICT活用と対話の探究 ・振り返りによる学びの自覚 ・繰り返し学習の徹底(標準学力調査等、チャレンジタイム、個別指導) ・授業研究と授業観察による改善視点の共有化と進捗把握	①85% ②80% ③どちらも90%	①84.9% ②64.0% ③児童90% 教師94.2%	①99.9% ②80% ③児童100% 教師105%	①B ②B ③A	①目標を達成できなかった。(99・9%) 学力が定着していない児童の把握と手立てを共有し、学年での実施→振り返りが不十分であった。授業での練習問題に取り組む時間の保障とチャレンジタイムの一層の充実を図っていく。 ②目標を達成することができなかった。(80%) 単元末テストの「思考・判断・表現」において、事前に単元でどんな力を付けることが必要かを学年ブロックで意見交流し、指導に生かした→児童のつまずきの分析が十分でなく、日々の取り組みや学習補充の在り方を見直していくことが必要。 ③目標を達成することができた。(100%) 4月からの校内研修の内容を工夫した。→「授業をファシリテートする」という意識や具体的な指導・支援を共有することはできたが、「授業をファシリテートすることができた」のは児童のどんな姿があったときかを共有し、授業改善につなげることが必要。	①子供たち主体の学び合いを意識した授業改善。組織としての具体的な取組を明確化。単元末テストの「知識・技能」において、力が定着していない児童の把握と手立てを共有し、学年での実施→ほぼ目標値に近い達成度ではあるが、より個への指導を充実させていく。 ②「思考・判断・表現」の力を育成する具体的な手立て(思考させるための問いや表現の場の設定など)が必要。子供たち全員が参加する授業を目指し、NRTや全国学力調査等で明らかにした学年や学級の課題に応じて今後の対策を共有・実施→振り返りと見直し。 ③現段階での課題や校内で研修していく内容を焦点化し、「授業をファシリテートする」ことの姿を校内の教員間で共有。また、目指す児童の姿を共有。→児童が主体的に学ぶことができている際には教師が肯定的に価値付けを行い、児童の意識向上にも努める。	○			思考・判断が低いということだが、小集団の中での個、集団の中での個など、個に応じた指導の充実をお願いしたい。 有効な手立てを考え、今後取り組んでいただきたい。 ICT端末のスキルの幅があるようなので適切な対応してほしい。	
豊かな心の育成	潤いと落ち着きのある児童の育成	◎目標達成のため、自ら挑戦し、仲間とともに粘り強くやりぬく力を育成する	①学級・学年・児童会としての意識を高める集団づくり ・学校行事・児童会行事を活用した目標・手立ての設定と振り返り ・がんばりを認める場の設定 ・縦割り班活動の活用 ②「あいさつ」と「掃除」による気持ちの良いきれいな学校づくり	①90% ②90%	①100% ②あいさつ児童95.7% 教師23.5% 掃除児童93.7% 教師41.2%	①111% ②あいさつ児童106% 教師26% 掃除児童103% 教師45.8%	①A ②B	①目標を達成できた。(111%) 夏祭りや縦割り班遊びなどの児童会行事と、縦割り班掃除や全校の月目標の日々の活動を常に評価し、フィードバックすることで、頑張りを認める場をつくることができた。 ②目標を達成できなかった。 児童:あいさつ(106%)そうじ(103%) 教師:あいさつ(26%)そうじ(45.8%) あいさつや掃除に対して肯定的に評価している児童が多い。一方で、児童の様子に対して満足していない教師が多く、今後も継続して指導をしたり、手立てを考えたりしていく必要がある。また、同じ目標が共有できていないため、児童と教師での結果のずれが生まれている。	①縦割り班活動や行事等の特別活動の時間を充実させることで、高学年を中心とした集団づくりを目指していき、さらに集団の意識を高めて、肯定的評価ができるようにする。高学年の質を高めていくことで、高学年に任せるところを多くしていきたい。 ②縦割り班での掃除をしているので、高学年を中心として、無言掃除に取り組めるようにしていく。 教師と児童の意識の差があるので、共通認識をもつことで、同じゴールを目指していけるようにする。また、教師側が手本となるような挨拶を行い、挨拶のよい児童を褒めながら、全校へ広めていけるようにする。	○			「気持ちのよいきれいな学校」の具体的なイメージを共有し、自己評価の信頼性の向上をお願いしたい。 挨拶について先生と児童との達成度に関わりがあるのだが、地域での子供たちの様子から、学校で挨拶の取組があると子供たちの挨拶が変わってくると実感している。挨拶運動などの取組をしてみようというのではないだろうか。また、その取組がきっかけとなって子供たちが自然に挨拶ができるようになっていく。	
健やかな体の育成	生涯にわたり心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための基礎的実践力の育成	○自分の健康に関心を持ち、健康課題を自ら解決していこうとする態度を育成する	①基礎体力の向上(運動量の確保) ・体力テストの実施による課題の分析と指導の工夫 ・体育の授業の工夫 ・外遊びの推奨と縦割り班遊びの実施 ②計画的・意図的な食育指導・給食指導の実施	①80% ②80%	①90.9% ②96.4%	①113% ②120%	①A ②A	①目標を達成することができた。(113%) ・体力テストの結果を分析し、校内で体育科の指導法の工夫について検討することができた。楽しく運動できるように「アクティブチャイルドプログラム」の動きを取り入れたり、鉄棒の補助具を使用したりして、苦手意識が低くなるようにしている。 ・夏季休業中に外部講師を招聘し、体ほぐし運動について職員研修を行った。 ・毎週水曜日の昼休憩「ロング昼休憩」で、縦割り班遊びの時間を設定することができた。 ②目標を達成することができた。(120%) ・毎月19日を「食育の日」と設定し、校内一斉に食育指導を行った。また、夏季休業中に職員研修を行い、食育年間指導計画の見直しを図った。各学年の実態に合わせた指導を行うことができた。	①健康安全部を中心に各学年の体育科の授業の工夫について交流し、苦手意識を感じている児童も楽しく体育科の授業に参加できるような授業づくりをする。全校で運動できる機会(マラソン朝会、ドッジボール大会、なわとび大会)を設定する。 陸上運動について外部講師を招聘し、楽しく自分の伸びを実感できる授業づくりを推進する。 ②引き続き毎月19日を「食育の日」として校内で食育指導を行う。栄養教諭との連携を図り、家庭科や保健や学活などの授業と関連させて食への意識を高めさせる。定期的に職員アンケートを実施し、給食指導の徹底を図る。 アレルギー対応は学級児童と担任で確実に確認できるようにし、今後も児童の体調管理への意識を高めていく。	○			「感謝して食べる」子供の育成には、様々な教科・領域での指導に加え、家庭との連携も視野に入れた取組をお願いします。	
信頼される学校	保護者・地域とともに歩む学校の推進	○不祥事防止の徹底 ○地域とともにある学校の創造 ○教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	①自己との関わりで意識向上を図る研修の実施 ②保護者、地域、関係機関との連携 ・コミュニティスクールの推進 ・一校一貢献活動の推進 ③積極的な働き方改革への意識の向上 ・定時退校日の実施(毎週水曜日) ・教科担任制の導入	①100% ②100% ③100%	①100% ②50% ③88%	①100% ②50% ③88%	①A ②D ③B	①目標を達成できた。(100%) 不祥事防止研修の担当を学年で分担し行うことで、不祥事に対する意識向上につながっている。研修にロールプレイや意見交流を取り入れ自分事として捉えられるようにしている。 ②年度途中の為、目標未達成だが、計画にそって進めている。(50%) 学校林に関わっては、1学期のうちからフォレストサポートの方と連絡を早めに取り、連携をしている学年が多い。年度途中のため、前半期の実施率は50%だが、年度末までには全学年実施予定。 ③目標を達成することができなかった。(4～8月88%) 4～6月は、軌道に乗るまで、色々なことに時間がかかり45時間以上の職員が多かった。しかし、どのようにしたら、効率よくできるか、声をかけたり研修をしたりして、一人一人が自分事として、時間の使い方を工夫したという傾向にある。学校全体の取り組みは、次の通り⇒昨年度より時程を変更し、下校時刻を早め、放課後の時間確保。成績処理週間の設置(5時間下校の日を数日設置。教科担任制の実施。成績処理に係るスケジュールの提示。)	①研修を計画的に実施する。不祥事防止委員会など各種委員会においてヒヤリハット事案を出し合い、未然防止に努める。 ②学校林に関わり、フォレストサポートを活用した取組、学校林以外にも、やっさ踊り振興協議会、老人会、コミセン、消防団、スーパーなどを活用した取組を計画。実施に向け、地域人材と事前に密に連携を取り、より効果的に実施。 ③成績処理について、見直しをもち、計画的にできるように、3学期末までのスケジュールを細かく提示していることで、適宜声をかけていく。2学期末以降の成績処理週間は、どの程度授業カットをするのか、全体の進捗状況などを見て決めていく。会議などの持ち方を検討。帰りがしやすい雰囲気づくり。	○			地域人材の活用は、現状D評価ではあるが、多方面での活用が年間で計画されている。下半期での効果的な取組を期待している。 地域人材の活用は、「学校を開く」という視点をもって、多様な学びの可能性を広げていただきたい。	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し) <80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分らない。